

私たちには一人ひとりに神様からの計画があります。では、その計画はあなたの思う計画と一致しているのでしょうか？もし一致しているならば、あなたの計画は神様の力が加わり素晴らしいものとなるでしょう。しかし、もしあなたが思い描く計画と神様の計画が違っていただろうでしょうか。あなたは思い通りに事が進まないことに焦ったり、苛立ちを覚えたり、恐れったり、不安に襲われたりするのではないのでしょうか。そのようにならないために自分の計画と神様の計画とがいつもひとつであることが重要です。ただし、今日神様が語ろうとされていることはそのことではなく、もし神様とあなたの計画が違って自分の思い通りにならないとき、つまりあなたのうちに変化が起ころうとしているときに、信仰を持って人や環境に左右されず、いつも神様と共にあるためにどのようにしたらよいかということです。

神様の計画はエレミヤ33：3にあるように『あなたの知らない、理解を越えた大いなる事』ですから、あなたは今までに「自分はこうだ」と思って歩んでいるのに、その道を変えられる経験を幾度となくしたことがあるのではないのでしょうか。ここで神様を知らない人たちは、苛立ったり落ち込んだりして、結果そのことをあきらめてしまうかもしれません。しかし、私たちには無から有を生み出してくださる神様がおられます。私たちはくじけそうになったときにこそ、ここにいる意味を知ることができるのです。なぜなら何事も問題がなくてうまくいくことはなく、かえって問題があるからこそ、それを乗り越えさせてくださる方と共に成功を得ることができるからです。ですからあなたは、自分の思い通りにならないことがあっても悩むことなく、神様が葛藤を与える時にはすごいことが起こるのだということを知っていなければいけません。そのために学ばなくてはいけないこと、それは『信仰 (Faith) 』です。

私たちは何も問題がないときには信仰をもって神様に祈り、神様に聞いて歩むことができます。しかし問題が起きると、時に私たちは神様不在になって焦り、不安になり、恐れ悩み、拳の果てに自分で結論を出して撃沈してしまいます。あなたにはそのような経験がないのでしょうか？しかし先から言うように問題が起きるといことは実はチャンスなのです。なぜなら、あなたが変われるのは問題が起きたときだからです。何もないときに人生を考える人はいません。しかし、もし問題に直面したとき、その問題から逃げず神様に向けて問題をみるならば、神様はそこに必ず働いてくださいます。そしてあなた自身に素晴らしい変化を与えてくださいます。

マタイ27章には、様々な人が出てきます。ここに出てくる人たちは一人ひとり、自分が立てた計画を持っていました。その多くは神様の計画から外れたものでした。祭司長や民の長老たち、そこに集まった民、ピラトもそうでした。そのなかでイエス様の弟子であったユダとペテロをみてみましょう。ユダはイエス様を裏切り祭司長に銀貨30枚で売った人物です。イエス様は捕まる前に弟子たちに「わたしは人の手に渡る」と語りました。それはユダが手を下さなくても結果そうなるということ、つまりユダに悔い改めのときを与えようとしたのです。しかしユダは悔い改めることなく、的を外したまま首をつるという最期を迎えます。きっとユダは今までみたイエス様の数々の奇跡から、人の手に渡るなどとは思いませんでした。また捕まったなら必ず奇跡を起こすと思ったのでしょうか。しかしユダの計画のとおりにはなりません。またそれは他の弟子たちにもいえたことで、イエス様の言葉を聞いて誰一人信仰を持って祈る人はいませんでした。それどころか大切な晩餐の場で誰が一番えらいかを論じ合っていました。一番弟子といえるペテロでさえも、死にまで従うと言ったにもかかわらず、自分が捕まりそうになると3度もイエス様を知らないと言って自分の計画を変えてしまいました。しかし、ペテロが違ったのはその後神様と向き合い、悔い改めたことです。そして主の道に戻り、神様によって変えられ神様の計画を歩んだことです。ここでただの漁師シモンは多くの使徒、弟子たちを教えるペテロに変えられたのです。

私たちも同じです。あなたの人生に神様は存在していますか。ユダのように神様が不在で自分が立てた計画、価値観と違ったときに受け入れられない人になっていませんか。自分が立てた計画が全てになっていませんか。箴言16:1-3にこうあります。『人は心に計画を持つ。【主】はその舌に答えを下さる。人は自分の行いがことごとく純粋だと思ふ。しかし【主】は人のたましいの値うちをはかられる。あなたのしようとすることを【主】にゆだねよ。そうすれば、あなたの計画はゆるがない。』ですから私たちは信仰をもって歩みましょう。なぜなら人の心を変えるのは、神様のやり方で行ったときだけだからです。自分の計画に神様を置き、その計画を神様が値打ちを計られてもよいものにしましょう。焦って自分のしたいことをしていないか、神様不在になっていないか確認しながら歩みましょう。

そのための大切なポイントはただひとつ『自分の計画に変化を恐れない』ことです。信仰を持てば変化が起こっても大丈夫！自分がずっと大切だと思っていたことを壊されても大丈夫なのです。壊れたときに神様が働いてくださり変化が起こるからです。ですから問題の中にあるとき、神様に向きましょう。確かに自分にとってつらいことが起こります。しかし、そのことを通して神様はそこであなたの計画を終わらせる方ではありません。そこに素晴らしい計画をもたせるのです。ですから後悔で終わらせず、苦しみの中で主に告白しましょう。そして変化を受け入れましょう。そこには神様からの知恵が必要です。自分自身を使いこなすための知恵をもって信仰を動かして祈りましょう。そしていつもユダ1：20,21にある最も聖い信仰＝あなたが最初にもった小さな信仰にかえって主と共に歩みましょう。（要約者：金光 瞳）